

2-18 生ごみを原料とした堆肥と、排水汚泥・下水汚泥及び食品製造残さを原料とした汚泥肥料 (株式会社HMエスパス)

○ 株式会社HMエスパス千歳美々廃棄物処理センターは、市内の学校給食や自衛隊厨芥及び新千歳空港などの生ごみを原料とした堆肥、及び排水汚泥・下水汚泥と食品製造残さを原料とした汚泥肥料を製造。

国内資源の種類 肥料の種類・肥料名称 取組の経緯・内容・成果（見込み）

（堆肥用資源）
・ 生ごみ、厨芥
（汚泥肥料用資源）
・ 排水汚泥、下水汚泥、食品製造残さ

・ 特殊肥料（堆肥）
名称：元輝Ⅰ号
・ 普通肥料（汚泥肥料）
名称：元輝Ⅱ号

取組の経緯

- ・ 生ごみの80%は水分であり、この水分を燃焼させるためのエネルギーや埋め立てによる悪臭発生への対処が環境に悪影響を与えるため課題。
- ・ 株式会社HMエスパスは、これらの課題解決に向けて、微生物による生ごみの減容処理システムを構築。平成24年11月から資源として有効生ごみの堆肥化に取り組む。
- ・ 平成26年に千歳市下水汚泥の処分を担うことになり、汚泥の有効活用として、汚泥肥料製造を始める。

作物

主成分の含有量(%)、特徴等

・ 畑作物全般		N	P	K	C/N比
	元輝Ⅰ号	2.2	0.5	0.6	15.0
	元輝Ⅱ号	2.7	1.4	0.2	10.7

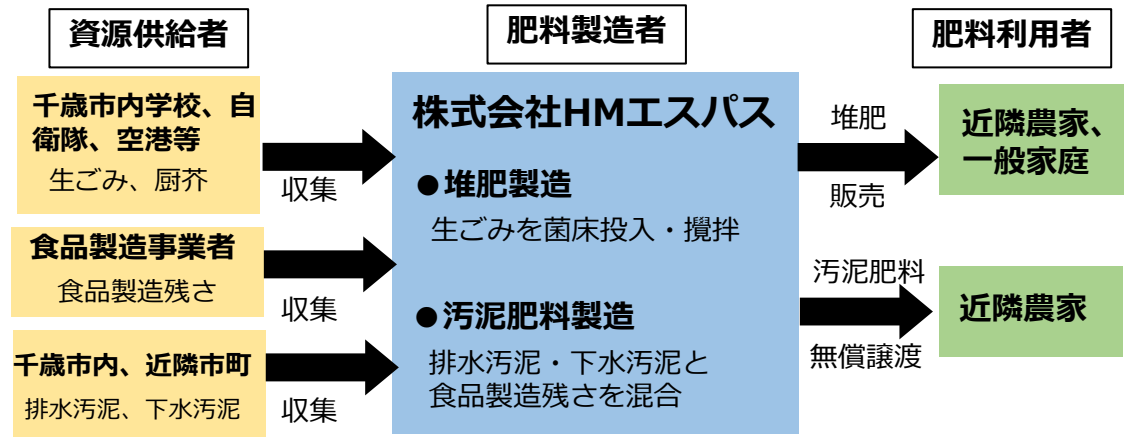
取組の内容

- ・ 生ごみを菌床へ投入し攪拌し、好気性発酵させ堆肥化。生成物をふるい分けし、細かいものを堆肥利用。粗いものは次の堆肥製造に菌床として利用。
- ・ 下水汚泥や工場排水汚泥と食品製造残さを場内発酵槽へ投入。嫌気性発酵により汚泥肥料を製造。
- ・ 堆肥は一般へ20kg500円（税込み）で販売。汚泥肥料は近隣農家へ地域貢献として無償にて利用して頂いている。

成果（見込み）

- ・ 利用者からの堆肥の評判は良く、今後の販売先拡大に期待。

主たる取組主体と肥料利用までの流れ



今後の課題・取組

- ・ 生ごみ原料の堆肥は、大量生産ができないことから、その販売は、希望農家や一般家庭のみ。
- ・ 乳牛農家の減少と鶏インフルエンザ等の影響により、畜産堆肥が減少。今後、汚泥肥料の需要が増え、品不足が懸念される。



生ごみ受け入れ



堆肥：元輝Ⅰ号